２０２０年度　入門講座

　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　 １２月 ６日 (日)

**第二十四課　キリスト者の生き方　―　識 別**

「**何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい**」(マタイ6:30-34)

現代はものすごいスピードで変化している。核の時代、宇宙の時代、情報化の時代、生命操作をする時代など爆発的な変化の時代に、キリスト者として私たちは何を選び、どのように生きていけばよいのか。一年間通して見てきたようにキリストの価値観、キリストの心を自分の心として生きることである。これまでに培われた自分なりの生き方、価値観が、キリストのそれに変えられる必要がある。

**Ⅰ　キリスト者としての生き方**　―― 本当に重要なことを見分ける力――

問　日常生活の中で、わたしは何を基準に選びをしているか、振り返ってみよう。

＊～がしたいという欲望。～が好きか嫌いかという感情。

すべきかすべきではないかという建前？

私たちには本当に重要なことを見分ける力が必要。旧約時代から識別はあった。

ソロモン「見分ける力が欲しい」

王位に就くとき、神から「どんな恵みが欲しいか」と問われる。ソロモンの答えに、神は非常に喜ばれたという記録。

「主が何をあなたに求めておられるかは、あなたに告げられている。正しく行い、

慈しみ深く愛し、あなたの神と共に、へりくだって歩むこと、これである」（ミカ6:8）

　「正しく行え」＝社会的回心　神と人間とすべての被造物のつながりの秩序を正しく保つこと。

　自己中心性→他者中心性

キリストの価値観に従い、キリストの心を心として生きるために、これまでの生き方や

価値観が変えられる必要がある。これが絶え間ない「回心」の道である。

　＊忙しさの中で見失うもの；「忙しい」＝「心を滅ぼす」

　忙しさの中で大切なものを見失う。物質万能、学歴偏重など偏った価値観からくる忙しさ、これは社会問題である。仕事中毒になると、神との関わり(祈り)人との関わりをないがしろにしてしまう。時間的にも心理的にも「ゆとり」が必要。

＊一日の振り返り；毎日の生活の中に現存しておられる神を意識する。

1. 霊的識別とは何か

教会の中にも修道会の中にも変化があり、伝統を固守しようとする保守的態度と、新しいものを求める進歩的態度がある。何が良く何が真実かということは、古いか新しいかではなく、その基準はあくまでもイエス・キリストにある。

霊操（Spiritual Exercise）イグナチオ・ロヨラ

　　　「選定をするとき、あるいは何かを決定するとき、本当に必要なことは一つだけである。神の私に対する呼びかけを探し求めて、それを見出すことである。そのために次の確信が必要である。すなわち神はいつも変わらない愛をもってわたしを呼んでおられる。神は、ご自分の愛の中に生きるようにと、わたしをお創りになった。わたしの救いと幸せが神の愛の中にとどまること以外にはありあえない」（S.E.169）

霊的識別とは、神のみ心、神の望みを求めていくことである。イエスの価値観に従った

選びができるために、神からくる霊の働きを認め、神の霊の促しを見分ける識別という

作業が必要になってくる。

　現代は霊の時代、ということは悪霊も多く働いているということ。道徳も混乱し、一見魅力的

に見える形で、反キリスト的な考えが渦巻いている時代でもある。イエス自身の誘惑の体験(物欲、権力欲、名誉欲)を思い出すことは助けになる。

どの人にとっても神の望みが優先されるのはいうまでもないが、私たちは安定した楽な生活を

選ぶ傾向がある。私たちはどちらの道をとればよいのか。

1. 識別の前段階：識別の能力は段階的に養っていくもの、訓練しながら育っていくもの。

①　自分自身を知る（自己観察）。

自分はどの能力を使って物事を判断する傾向があるか。

人間は誰にも、感情の部分、霊的部分、知性の部分、肉体の部分がある。これら４つが調和を保ちながら協力しあっている。

a　感情の部分；自分がどのような霊に動かされているかに気付くこと。

聖霊も悪霊も自分の「心の動き」を通して働く。「心の動き」とは、感じ、気持

ち、感情、気分、印象、最初に浮かんだ思いなどによって知ることができる。

これは自分についてどんな傾向を語っているか？

（嬉しい、悲しい、重い、うきうき、いらいら、妬み、不愉快、嫌気、落ち込み、失望）

感情は外的出来事によって作られるのではなく、何かの出来事に出会うと瞬時にそれについての思考が働く。(自動思考)その思考から感情が生じる。自分の中に起る心の動きに敏感になると、自分が何に捕らわれているか、何にこだわっているか気付く。自分が解放されていないところを知ること、それを意識していくことが識別の基本。

ex　\*難しい仕事⇒自分には能力がない(思考)⇒私にはできないと負担（嫌だ、重い気分）

\*出会い⇒あの人はどうも虫が好かない⇒相手への妬み

b霊的部分　魂の底に誰もが与えられている直観的能力。

c知的部分　理性的に考える、知性を使って客観的に自分の能力をみる。

d肉体の部分「自分のからだに聴く」ということ。

からだが頭や感情と別の働きをしていることに気が付くことにも注意を向ける。

からだは言語化される前に「ちょっと違う」とか「腹に落ちた」というように体の内側で感じていること。どっちの方に行けば自分の体に力が湧くか、体の反応をみる。

② 自分の持っている神様のイメージに気付く。

自分が持っている神様の姿がイエスの示した神と違ってはいないか。

ex.ファリサイ派の人たちの持っていた神のイメージとイエスの示した神のイメージは違った。

自分が作り出した神のイメージ、厳しい神のイメージ、裁く神・・・

問　あなたは神さまにどのようなイメージを持っていますか。

自分の神イメージとイエスの教えてくださった神イメージの違いに気付くとすれば大きな

回心である。

３．霊的識別の実際：人間は宇宙にただひとつの選択を許された生物。選択は私たちが人間として与えられた最高の贈り物。そこには責任が伴う。

　悩んだり迷ったりの人生で選びが大切。重大な事柄の識別なら同伴者が必要。謙虚な心で神の

お心を受け入れる透明さ、心身健康であること。

神のお望みは何か？聖霊の光を願い、自分の能力のいずれかを用いて、祈りの中で識別

を行う。

どちらの道も良いものである。より良いものは何かを福音の光のもとイエスの価値基準に従って識別する。ＡかＢかと固定的に考えない。

識別の三つの時

1. 「躊躇することも間違うこともできないくらいに、神の呼びかけがはっきりしていて」（176）」魂の底に光がさすように直観的にわかるという「時」。

パウロの回心、マタイの召命

1. 心(感情の部分)の中にいろいろな変化を感じている状態のときは、恵みに満ちたふさわしい「時」。

心の動きを通して神のみ旨を探す。AかBのどちらがプラスの感情、積極的な心の動きがあるかを比べてみる。

\*どんな喜び、不安を感じるか？（Ａの場合、Ｂの場合）

\*Ａの場合、Ｂの場合、どちらに深いレベルでの生きがいや満足感を感じるか？

自由、愛をより強く感じるか？ある程度の時間が必要。

③　心が冷静で落ち着いている「時」。

知性を使って考え、判断し、理性的に選ぶ。

　　 　 \*②と③を組み合わせて識別することが多い。

　　　　　　\*どっちの方に行けば自分のからだに力が湧くか、体の反応をみることも助けになる。

４．正しい識別ができるために；

* 1. 祈りの雰囲気の中で；神のみ旨を探す為、真に神のみ心にかなったことを選べるよう聖霊の光を願い、祈りの中で行う。
	2. 内的な自由さがあるか、偏らない心があるか。(神の望みならたとえ自分の好みに合わなくても受け入れるという。自由は好き勝手なことをする自由ではない)
	3. 正しい情報が十分あること。

必要なら識別する事柄に関する情報を集めること。例；商売を始めるとき

* 1. 客観的な情報と自分の心の動きを通して見えてきた選択の可能性に、福音の光をあてる。

　　　　福音の光＝神の国の役に立つかどうか、イエスが大切にしたものと矛盾がないか？

ex 企業の場合利潤や従業員

Ａを選んだ場合のプラス、マイナス。

Ｂを選んだ時のプラス、マイナスをリストにする。

aイエスの大切にされたものと矛盾しないか、イエスの愛の心があるか？

　　　　 b 選びの結果引き受けることになる困難・十字架が見えるか？

 c　他者への善になるか？

 d　自分の核となる「スティルポイント」(神と触れている場)において協和音をだすか、不協和音をだすか。

* 1. 神がそこで呼んでおられると感じるか？よく検討してどちらが神のみ心か判断する。識別は神の招きは何かを選び取ることである。識別と決定は同じことではない。

自分の選びを神に捧げ、神が受け入れ確認してくださるよう祈る。

心が平和か、不安が残るか？「からだ」は違和感を訴えていないか。

Ａの＋　給料　保証　(家族)　Ｂの＋　生きがい（決定的要因）

* 1. 選びについて神からの確認を求める。

　　　　　直観　⇔　理性的識別

* 1. 実行してみて自由な心で評価する。

　　　　　自由の原則、愛の原則。

どこかで自愛心が入っていないか？キリストを中心におく。

「友の中で最も弱い人のことを思い出し、どちらを選んだら彼が喜ぶか、を基準とする」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ガンジー（ヒンズー教）

　　　　　　5. よい選定ができるための方法の例

1. 「私が、初めて会う人を想定する。その人が『神の呼びかけに、よりよく答えるために、どうしたらよいか』をわたしに相談すると仮定する。その人が神の望みに応えるために、より優れた道を選ぶことを大切にするなら、私の勧めはどんなものになるだろう。わたしがその心にかけている人に勧めていることを思いめぐらす。相手のために最高のよいことを勧めるとすれば、自分でも同じことを実行することは、きっとよい選定になるであろう。」（SE185）

彼が自分と全く同じ悩みを持っていると仮定して、相手を聴くことによって、神のみ旨を知る。

1. 「臨終のときを迎えている自分の姿を想像の目で眺めることにする。間もなく全てを終えて、この世から離れることが分かっており、もはや何も執着していないし、何が最も大切なのかも明確になってくる。そのときの自由と洞察力を、今の私が持っているとするなら、その直面していることに関して、どのように決定するだろうか。また、今選ばなければならないことに関して、どのような決断を下すことが、自分の臨終の慰めと誇りになるだろうか。このように考えることから、光とインスピレイションを受け、それに沿って、今直面していることを選定する。」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（SE 186）

自分の死を想像する。死を直前にして、心残りは何か、本当にしたいことは何かを問う。

1. 「この世を去って、キリストの前で、裁きを受ける自分を想像の目で観ることにする。キリストとこの選定について話し合っている場面を思いめぐらす。その裁きの時に今のことに関して、どんな選定が喜びになるかを考え、その通りに選定する。」（SE 187）

最終的に、十字架上のイエスを見つめる。何を語りかけてくださっているだろうか。

**Ⅱ　選び直し**（SE189）

**A**大きな道（生き方）の選び；未知なるものにかけていく決断。

　B選び直し；今生きている日々の生活を選ぶこと。十分わかっていることに自分を賭けていく決断。

　　　　新しく選定しなければならない場合があるが、むしろもうすでに選んだ道を、さらに真剣に生きる姿勢を選びなおさなければならないことの方が多いだろう。結婚、叙階された人、誓願を立てた人、職業や生活様式が決まっている人。自己中心的な生き方から離れ、自分の意思と思いをキリストに徹底的に捧げる度合いに応じて、キリストの生き方を自分の生き方とすることに進歩をとげることができるのである。

　　マリアの生涯

　　　\*「お言葉どおりこの身に成りますように」(ルカ１：３８)

　　　　マリアの人生は、決して解決できない苦しみを背負って、十字架のもとまで選び直しを続けた人生であった。

人間として、キリスト者として成熟していくための識別

本来の自分と今生きている自分が統合されること、人生は真の自分のアイデンティティの確立に向かう途上である。そのために、祈りによる神との親しい交わりが必要であり、聖書に親しむこと、支えられ支えあう仲間を持つことが大切になってくる。

＊次の実感があるとき、本来の自分を生きているという実感が＾生まれる。

　　１　愛されている実感（神からと他者から）。

　　２　自分には価値があるという実感　　自分には存在価値がある。

　　３　心の絆の実感　　他者とのつながりの実感

　　４　自律の実感　　自由に決断できるという実感

　　５　他者のために役立っている実感

　　　　　**自分との出会い**　→　**他者との出会い**　→　**神との出会い**